

(島根県隠岐郡海士町村上助九郎文書・原文)

上紙共八丁

元禄九丙子年朝鮮舟着岸一卷之覚書

朝鮮舟着岸一卷之覚書

隠岐国島後

長 上口 三丈  
下口 二丈

幅 中二而上口 一丈二尺

一朝鮮船壹艘 深サ 四尺二寸

但八拾名船積可申候

檣 式本

帆 式ツ

梶 壹羽

櫓 五挺

蓬 木綿者多 式門艦二立候

木碇 式挺

かうそ総四房

敷物ござ 犬ノ皮

一船中人数 拾壹人

\*莫産

俗

安龍福

俗

李裨元

俗

金可杲

俗

三人各年不書出

坊主

雷 憲

坊主

雷憲弟子

衍 習

坊主

三人各年不書出

アンベンチニウ

一 安龍福 午年四十三

冠ノヤウナル黒キ笠 水精ノ緒

アサキ木綿ノウハキヲ着申候

腰ニ札ヲ壺ツ着ケ申候

表ニ通政太夫

安龍福 年申午生

表ニ住東萊 印彫入

印判小キ箱二入

耳カキヤウジ小キ箱二入

\*浅黄 上衣

\*搔き楊枝

\* (帆柱)

\*司杲

此式色扇ニ着持候  
一金可杲 年不書出

冠ノヤウナル黒キ笠木綿細  
白キモメンノウハキヲ着申候  
扇持申候

坊主

一興□寺ノ住持 雷憲トイホシ 歳五十五

冠ノヤウナル黒キ笠 木綿ノ紬  
細美ノウハキヲ着 扇持申候

己巳閏三月十八日金鳥山之

朱印状雷憲所持仕ルヲ出申候ニ  
付 則 写申候

康熙二十八年閏三月二十日

金鳥山朱印ノ書付 雷憲

所持仕ヲ出シ候ニ付則写シ申候

箱老ツ 長 壹尺 者、四寸

高 四寸

鈴ノ金具在リ

内ニ算木在 竹ニ而作之申候

かけこニ硯ヲ仕組申筆墨在リ

雷憲弟子

一坊主

アレスツ 衍習

歳三十三ト申候

一右 安龍福 雷憲 金可杲

三人江在番人立会之時

朝鮮八道之圖ヲ八枚ニ、所持仕候ヲ

出申候 則八道ノ各ヲ書写朝鮮ノ

詞ヲ書付申候 三人ノ内安龍福通詞ニテ

事ヲ問申候得ハ答申候

一舟中ニ荷物<sup>ニ</sup>在之候哉と尋候へハ

干鮑少和布少在之候 是ハ食事之

サイニ仕候由申候 後ニ船中□書付別ニ御座候

一船中ニ坊主五人乗世候儀尋候へハ竹

嶋見物ヲ望ニ付同道仕候由申候

一沙門宗派五人共ニ一宗可又別宗可

何宗たと尋候へハ雷憲其問ノ書

付ニ答ヲ書記申候 然共其分ケ

不分明様ニ相聞へ申候 依之翌廿一日ニ

宗旨各伯州へ参候王<sup>ニ</sup>け荷物等之

儀書付相尋候へハ病人李裨元筆者

ニテ書出ス書付有リ 則差上申候

一安龍福申し候は竹嶋ヲ竹ノ嶋とと

申候 朝鮮国カンコングク 江原道トウグワイ 東萊

府ノ内ニ 鬱陵嶋ウシロンタウ と申嶋

御座候 是ヲ竹ノと申由申候

則 八道ノ圖ニ記之所持仕候

一松嶋ハ右同道ノ内 子山ソウザンと申

嶋御座候 是ヲ松嶋と申由是も

八道之圖ニ記申候

\*司杲

\*木綿 上衣

\*興□寺にルビあれど虫食い解説不明

\*右行の寺名・□は旺か旺か

\*上衣

\*幅

\*懸籠

\*司杲

\*カ (虫食い)

一 当三月十八日朝鮮国 朝鮮国朝  
飯後ニ出船 同日竹嶋へ着夕  
夕飯給申候由申候  
一 舟数十三艘ニ 人壹艘ニ九人  
十人十老人十式三人十五人程宛  
乘リ竹嶋迄参候由 人数之  
高問候而も一圓不申候

一 右十三艘ノ内十式艘ハ竹嶋ニ而  
和布鮑ヲ取 竹ヲ伐リ申候  
此事ヲ只今仕候当年者鮑  
多も無之由申候

一 安龍福申候ハ私乗参候船ニハ  
拾老人伯州江参リ取鳥

\*鳥取

伯耆守様江御断之儀在之候  
越申候 順風総布候而当地へ寄申候  
順次第二伯州江渡海可仕候  
五月十五日竹嶋出船 同日松嶋江  
着同十六日松嶋ヲ出十八日之朝  
隱岐嶋之内、西村之磯へ着  
同二十日ニ大久村江入津仕候由申候  
西村之磯ハ荒磯ニ而御座候ニ付  
同日中村江入津之是之湊初て故  
翌十九日波所出候而同日晩ニ  
大久村之内かよひ浦と申所ニ  
舟懸リ仕廿日ニ大久村江参  
懸リ居申候

一 竹嶋と朝鮮之間三十里竹  
嶋と松嶋之間五十里在之由申候

一 安龍福ととりべ式人四年已前  
酉夏竹嶋ニ而伯州之舟ニ被連  
まいり候 そのとりべも此度召連  
参リ 竹嶋ニ残置申候

一 朝鮮出船之節米五斗三升入  
□十表積参候得共十三艘之者共  
給申候ニ付只今者飯米 貧ク成候  
由申候

\*汚れで判読不可

一 伯州用事仕思竹嶋江戻リ  
十式艘之舟ニ荷物ヲ積世  
改仕六七月之比帰国仕リ殿江も  
運上ヲ上ケ申筈之由申候

一 竹嶋は 江原道 東萊府  
之内ニ而朝鮮国王之御名  
クモシヤ  天下ノ名 主上 東萊府  
殿ノ名 一道方伯 同所支配人之

名 東萊府使<sup>フシ</sup>ト申由申候

一四年以前癸酉十一月日本ニ而  
被下候物共書付之帳老冊出シ  
申候 即写之申候

一三人江在番人对談終リ舟江  
三人共ニ歸リ其後ニ書簡ヲ差  
出シ干鮑六包内壺包ハ大久村  
庄屋へ、五包ハ在番人へ之心入  
尔而指越候得共六包共ニ返シ申候  
其書簡之奥ニ生菜 青菜  
實菓請と御座候ニ付苜蓿ふ可  
榘実芹生姜など遣シ申候 尤  
書簡之返事ヲモ相添遣申候

一廿一日安龍福<sup>フ</sup>書付出シ申飯  
米ニ切レタ飯<sup>フ</sup>食ニ絶候由申  
越候ニ付舟江庄屋与頭右衛門罷  
越様子相尋候へ者飯米無之  
致難儀候 朝鮮ニ而他国之舟  
參候得ハ致馳走候處此元ニ而ハ  
大凡成儀之様ニ申候ニ付庄屋申候ハ  
爰許も異国舟被放風參候節ハ  
飯米等其外所相応之儀ハ御  
調被遣事ニ候 其方儀 取鳥

伯耆守様へ

\*鳥取

訴訟在之參り候と之申方ニ而候間  
飯米等致用意可被參事と申候得者  
不審尤成儀ニ候 竹嶋十五日ニ出候  
得者其俣日本之地へ着等申候 日本  
之地ニ而ハ御如在無之と存右之通ニ候与  
申候 然共無覺束候間船中見可  
申と庄屋申候得者成程見候様ニと  
申ニ付見分仕候得者飯米入候 吠之  
内ニ白米三合程残リ申候 庄屋申候ハ  
飯米切レ申候段見届申候  
去<sup>レ</sup>年作不熟ニ而米払底ニて候  
少々在之候而も惣米ニ而候 不苦候ハ  
少ハ才覚可仕由申候得者致才覚  
くれ候様ニと申ニ付在番所<sup>ル</sup>參候  
迄ハ延引ニ付大久村地下<sup>ル</sup>取合  
白米四升五合遣シ申候 朝鮮升  
壺斗壺升五合ニ計立て手配越申候  
追付在番<sup>ル</sup>米參候ヲ則白米ニ  
仕壺斗式升三合遣之候得者朝鮮  
升三斗ニ計立手配越申候  
右兩度之米 廿一日之夕と廿二日  
三度之飯米在之由申候ニ付其  
積リヲ以追々米才覚仕時々ニ  
飯米あて可い渡し申候

一拾耆人之内各歳知レ不申外  
猶又宗門之儀銘々ニ願ハ書  
記伯州へ訴訟之王け書付出シ候  
様ニと申候得者始ハ心得候由申候  
處廿二日朝ニ至リ其事共  
書出スニ不及候 伯州へ参委  
細可申上由重而ハ其間事無  
用ニ可仕由書付申候則指上ケ  
申候

ドイホシ  
雷憲廿二日ニ陸へ揚リ候時之  
持衣束ハ

一ウハキハ白木綿ノ衤つミニ  
似タルヲ着シ申候  
一帽子ハ本朝禪宗ノ用候様  
成ヲ着シ申候

一珠数ヂヌも禪宗ノ用候様成ヲ  
持申候 玉ノ数十計在之 笠ハ  
着不申候 弟子衍習モ揚リ申候  
持衣束雷憲と同断  
但衍習カ珠数ノ玉太サ同ク  
数ハ多相へ見申候

\* (衣装)

右廿二日安龍福 李裨元 雷憲  
同弟子陸へ上リ候事ハ西風強ク船  
中不静物書候儀不成候間陸へ  
上リ書可申と申ニ付海邊近キ  
百姓家へ入レ候處ニ其時ニ至リ  
前々書付計書出し申候廿一日舟  
ヲも證懸リ申候書簡今度之  
訴訟一卷と被為長々と仕多る  
下書ヲ致シ本書をも證懸リ  
候へとも廿二日陸へ上リ相談仕かへ  
申候様ニ相見へ申候 併前之書付  
ニ而始終大体王け聞へ申候  
様ニ奉存候其通ニ而差置申候

一廿一日 二十三日迄も風雨強ク  
御座候而西郷へ朝鮮舟廻シ候  
本引舟付候而も難成候ニ付而  
番舟申付役人共付大久村ニ  
其俣指置申候 惣而十八日ノ  
西風毎日強ク船路ノ通ひ  
不罷成荒申候

一石州へ為右御注進松岡弥次右衛門  
渡海申付候ニ付廿二日弥次右衛門  
呼戻シ高梨左衛門 河嶋理大夫  
大久村江遣置申候 飯米等近々  
見計庄屋方ノ渡させ候ニ付  
朝鮮人悦申由ニ而書付指

出申候 則差上申候  
右此度朝鮮人一巻之書付  
並朝鮮人出候書付目録ニ記  
之弥次右衛門持参仕候口上ニ茂  
可申上候以上

五月廿三日

中瀬 弾右衛門

山本 清右衛門

石州 御用所

\* (これより調査記録は別記にあたる)

### 朝鮮舟在之道具之覚

- 一 白米 呌ニ 三合ほど残り申候
- 一 和布 三表
- 一 塩 壺表
- 一 干鮑 壺束
- 一 薪 壺メ
- 一 竹六本 長 六尺八寸 但し一尺廻り  
同 三尺五寸  
同 三尺
- 一 刀 壺腰 此刀武器ニハ難用  
匱相成毛のニ候
- 一 脇指 壺腰 此脇指物ハ脇指ニ候へ共  
料理などい多し候ニ付包丁  
同然
- 一 鍵 四筋何も鮑取 笠物之由長物ハ  
四尺計
- 一 長刀 壺
- 一 半弓 壺
- 一 矢 壺箱
- 一 帆柱 式本内 壺本ハ八尋  
壺本ハ六尋 内 壺本ハ竹之由  
壺羽 壺丈四尺五寸
- 一 梶 王ら  
かつら  
志な
- 一 ミな王綱
- 一 とま 拾枚計内 式枚長ケ五尺横一丈二尺  
残ハ日本ノとまる少大キ
- 一 犬皮 三枚
- 一 藤こさ 三枚 机こさノ類ルニ而候

右之通見分仕候處残無御座候

机こさノ類ルニ而候

朝鮮人俗名

李裨元 イビジンヤン 金可杲 キンサウクハウ

\*司杲

柳上工 ユシヤコウ 余耳官 キョウハンゾハン

\*ルビはユシヤコウとも読める

ユウカイ  
此字相尋候へ共書  
不申候下ニ□毎度  
末座二居申候

\*□は一字か二字か不明

安龍福共六人俗

僧名

興□寺ノ雷憲 フニコソウ トイホン

\*筆字では旺。□は旺か。ルビはそのま

□律 ヨレスク 丹冊 タンソノイ

\*筆字では 灵

□淡 スウクハネイ

衍習 エンソツ

トイホン  
(雷憲弟子)

\*筆字では 騰  
\*ここではアンスツではない

右五人坊主  
合拾老人

朝鮮之八道

京畿道 キョウキダウ

江原道 カンランダウ

此道ノ中ニ竹嶋松嶋有之

全羅道 チエンナアダウ

忠清道 チュウチョクダウ

平安道 ペアンダウ

咸鏡道 ハンギョンドンダウ

黄海道 ハンパヘダウ

慶尚道 ケムシヤムダウ

解説者

島根県松江市

樋野 俊 晴